

# 平成30年度 第2回学校評議員会 会議録

## 1 会議の名称

平成30年度岩手県立住田高等学校第2回学校評議員会

## 2 会議の構成

### (1) 学校評議員

菅野 英子 氏	住田町社会福祉協議会
佐藤 清司 氏	会社員
佐藤 智一 氏	住田町立世田米中学校長
佐々木 純 氏	東海精密工業岩手事業所管理部部長代行
山内 米子 氏	主婦

### (2) 学校職員

鈴木 広樹	校長
伊藤 正則	副校長
利府 崇	教務主任
三浦 天豪	総務主任
松田 隆宏	生徒指導主事
西出 和久	進路指導主事
大澤ゆかり	総務課

## 3 会議の開催

平成31年2月18日（月）14：30～15：40 【住田高等学校会議室】 評議員4人、学校職員6人

## 4 会議の次第

- (1) 開会
- (2) 校長挨拶
- (3) 学校概況（経過）報告について
- (4) 意見交換
- (5) その他
- (6) 閉会

## 5 会議の概要

### (1) 校長挨拶

本校は今年度、創立70周年の年であり、記念式典・住高フォーラム・祝賀会が執り行われた。70周年記念誌についてはこれから発行の予定であり、現在、詰めの作業を行なっている。また、今年度はIBC岩手放送の「わが町バンザイ」等、テレビ番組で本校が取り上げられる機会が多かった。今回の評議員会は、学校概況及び学校評価に係る内容であり、皆さんの忌憚なきご意見を頂戴したい。

最後に、今回で任期満了となる評議員の方々には、今までのご尽力に対して感謝申し上げる。

### (2) 学校概況（経過）報告について（資料に基づいて説明）

### (3) 意見交換

ア 評議員  
学校側

不登校の生徒はいるのか伺う。

不登校の定義は、年間30日以上欠席した生徒であり、これに該当する生徒はいる。しかし、その生徒も現在は登校をしている。

評議員

貴校には、町教委の事業により開設されている放課後生徒が過ごせる場所がある。また、ボランティア活動に熱心に取り組んでいて魅力ある小さな学校だと思う。

約6割が町外からの生徒という現状は残念である。町内在住の生徒だと、住田テレビで貴校生徒の活躍が見られるのに、と思う。学校評価アンケートの結果は、生徒や保護者が、貴校は生徒個々が希望の進路に進めている学校だと評価していることを表しているように思う。これは大変素晴らしいことだと思う。

また、貴校にはいろんな人達が応援に入ってくれているのが良い。

- イ 評議員 学校評価アンケート結果の概要版に、今後の対策が記されているが抽象的な表記になっている。質問や意見を出し易くするためにも、対策の具体的な例を挙げて欲しい。
- 学校側 了解した。次回、改善する。
- 評議員 「わが町バンザイ」で放映された映像を見て感じたことは、生徒の対応が良かったことである。しかし、住高祭に来て気付いたことは、来校者が公開されている個々について、何をどう見たら良いのか分かり辛いことだった。良いものを持っている学校の活動を適切にアピールするためにも来校者に対する案内を工夫して欲しい。
- ウ 評議員 生活指導に関して、いじめに係る回答結果で教職員の肯定的評価に比べて生徒及び保護者の肯定的評価が約10ポイント低いのはなぜだと捉えているか。
- 学校側 本校においては、いじめの兆候が少しでも見つければ、必ず速やかに対応しており、いじめ問題への対応に係る教職員の意識は高まっている。
- 評議員 その上で、いじめの問題については、当事者の受け取り方に違いがあることや、「もっとこうして欲しかった。」等の思いが生徒及び保護者にはあるのだと捉えている。それがアンケート結果に出ているのだと思う。
- 貴校の様子については、住田テレビで情報を得ている。町内の子供が町内の高校に入らないことを心配している。住田らしさを出して、今後も地道に活動を続けて欲しい。
- エ 評議員 現在進められている高校改革をどう捉えているか。例えば「高校生のための学びの基礎診断テスト」をどうするか伺う。
- 学校側 来年度は学校ごとの対応になっており、本校では既にリクルート社のスタディサプリを採用しているので、それを活用する見込みである。
- 評議員 高校改革に関して、学校として地域振興に資するという項目があるが、このことについてはどのようにしていくのか伺う。
- 学校側 町内小中学校同様、本校も研究開発学校事業に平成29年度から32年度までの4年間指定されている。今年度は総合的な学習の時間の中で地域創造学を行った。来年度は総合的な学習の時間を地域創造学に替えて実施する。
- 本校の生徒は約6割が町外出身の生徒であり、地域を気仙地域と捉えて事業を行っている。
- また、本日実施した進路説明会においては、地域創造学の一環として、住田町役場の若手職員に話を聞く機会になった。
- 評議員 中学校では、学びを行動に移すのが大切だとしている。貴校にはその発展型を期待する。
- また、「小論文指導」と言われても校外の人間には分かり難い。学校での評価案などを示してくれば、質問や意見が出しやすい。
- 学校側 了解した。
- 今回は、本校において評価案の原案を作成し、評議員会において提示し、ご意見をいただく形をとる。
- 評議員 中学校から生徒を送り出す側として、貴校における入学直後の「人間関係づくりプログラム」の取組は良いものだと思う。
- それぞれの目的・目標を持って高校に入学している生徒達であるので、貴校においては、4月の時期に個々の目的・目標を丁寧に引き出す指導や教育実践をして欲しい。

#### (4) その他

次回の開催日程は、平成31年5月17日（金）午後の予定であることを確認した。